

お

とんだ
スケベ
バニー
だな!

くっ……!
やめっ……♡

せっかくだ
我が社自慢の

特別スーツを
堪能して
くれたまえ

こんなもの
くわえて
まともに仕事
ができる
と思つてたのか?

んなつ……!

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お



君に合わせて
形状変化
しているんだ

そんなっ!

服が勝手に
弱い所を...



貴様...
天才スパイの
俺にこんな事...

おや?
気に召さ
なかつたかな



乳首ばかりでなく
こっちにも集中して
欲しいな

そんなに
自分の足は
気持ちが良いのかな

なにを
白々しいっ

その割には
感じてる
みたいだが

そ…
そんな訳

ではさらに
激しく動いて
もらおうか

あっ♡
やめっ…♡



はは
口ほど
にもない

はは

はは

はは

はは

あとは脳まで
このスイーツを
浸食させれば…

随分激しい
じゃないか

私を許さ
ないんじゃない
なかつたのかな
カンナ君？

…っ！
そんなこと！

カンナは
ご主人様と
エッチさせて
もらえるだけで
光栄ですう♥

はは

はは

はは

はは

はは

はは

?

はは

はは



くくっ
そうだったね

しっかり
堪能
させて
もらおうかな

いっぱい
使って
ください♡

これでっ♡
カンナはあ
ご主人様のものお♡

勿論だ
これからも
しっかり
働いて
もらおうか…



なんて事だ...

：天才スパイは
仕事の選り好み
なんてしないさ...

良いのか?!
流石だな!



現実



任務
完了だ...

これはこれで...